

ブレンディッドコース「実践づくりフォローアップ講習」

<https://www.kyodai-original.co.jp/?p=3879>

事前のオンライン学習（各回20分程度の講義の視聴とミニ・テスト）と少人数に分かれたオンキャンパス（対面）での検討会のブレンドにより、より深い学びを目指します。お互いの計画や経験を交流することで、自分だけでは得られなかった新しい知見の獲得とネットワーク作りを目指します。2019年度は、「A:教科におけるパフォーマンス課題の実践」、「B:学校課題を解決するマネジメント」のどちらかの課題を選択して、取り組んでいただきます。



※「スクールリーダー育成のための基礎講座」または「教育評価の基礎講座」を履修済みの方にお勧めします。

日程	2019年9月18日(水)～2020年3月31日(火) (2回の講義配信と3回の実践交流会)	主催	京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター
対象	学校・教育委員会の関係者など18名程度 ※最低履行人数に満たない場合、不開講となる場合がございます。	協力	京都大学高等教育研究開発推進センター
会場	実践交流会会場：京都大学吉田キャンパス内 10月19日・12月14日 ▶ 総合研究2号館 教育学部 第5・7・8演習室 3月28日 ▶ 後日ウェブに掲載	申込先	京大オリジナルのウェブページ (https://www.kyodai-original.co.jp/?page_id=2180)
受講料	30,000円(税込) ※銀行振込 ※振込先等の詳細については、お申込み受付の際に事務局からお送りするメールにてお知らせいたします。 尚、本学都合以外での入金後の返金は一切できません。 何卒ご了承くださいませ。	申込受付期間	2019年7月1日(月)～8月31日(土) (定員に達し次第締切)
		問合せ先	京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局 Fax:075-753-3033 E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

プログラム

	受講形態	日程	内容
オリエンテーション	オンライン	9月18日(水) 配信開始	課題A/Bについて説明いたします。
実践交流会	対面	10月19日(土) 13:30-16:30	課題A/Bのグループに分かれ、実践交流をしていただくとともに、担当講師より助言を行います。
講義	オンライン	11月13日(水) 配信開始	石井英真准教授による講義「学習者主体の授業構想」を視聴していただきます。
実践交流会	対面	12月14日(土) 13:30-16:30	課題A/Bのグループに分かれ、実践交流をしていただくとともに、担当講師より助言を行います。
講義	オンライン	1月15日(水) 配信開始	石井英真准教授による講義「カリキュラム改善——校内研修のあり方を中心に」を視聴していただきます。
レポート提出	オンライン	3月15日(日) 締切	実践報告レポートを提出していただきます。
実践交流会	対面	3月28日(土) 10:00-16:00	矢野智司 京都大学大学院教育学研究科教授による講演「先生が生まれ教育が始まる(仮)」、および実践交流

※合格点に達した方に修了証を発行いたします。

課題A:教科におけるパフォーマンス課題の実践	課題B:学校課題を解決するマネジメント
<p>北原 琢也</p>  <p>京都大学大学院 教育学研究科特任教授</p> <p>様々な教科のパフォーマンス課題の実践づくりを支援しています。現在は、教師教育における「理論の実践化」だけでなく、「実践の理論化」に関心をもち、教育評価論やカリキュラム開発論について研究しています。</p> <p>【主な著書】『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価—アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(共著、明治図書、2016年)、『教職教養講座第15巻 教職実践演習フィールドワーク』(共著、協同出版、2018年)、『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価—「見方・考え方」をどう育てるか』(共著、日本標準、2019年)など。</p>	<p>田中 容子</p>  <p>京都大学大学院 教育学研究科特任教授</p> <p>パフォーマンス課題を活かす授業の中で生徒たちが生き生きと学習に参加する姿をたくさん見てきました。生徒と共に創ってきた授業から得た知見を、この講習でぜひ役立てたいと思っています。</p> <p>【主な著書】『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』(共編著、学事出版、2017年)、『教職教養講座 第7巻 特別活動と生活指導』(共著、協同出版、2017年)、『アクティブラーニングの評価』(共著、東信堂、2016年)。</p>
	<p>盛永 俊弘</p>  <p>京都大学大学院 教育学研究科特任教授</p> <p>現状分析、原因の特定(仮説)、教職員の合意形成(協働性)が不十分なため、プランが形骸化し、学校課題の解決や授業を中核としたカリマネの実現が困難な学校も散見されます。事実(エビデンス含む)に基づく実践的なマネジメントを追究、交流してみませんか!</p> <p>【主な著書】『子どもたちを“座標軸”にした学校づくり—授業を変えるカリキュラム・マネジメント』(単著、日本標準ブックレット、2017年)、「学力調査の結果を生かした取り組みと学校評価」『新教育課程下で進める学校評価の取り組み』(教育開発研究所、2010年)、『学力—いま、そしてこれから』(共著、ミネルヴァ書房、2006年)。</p>